

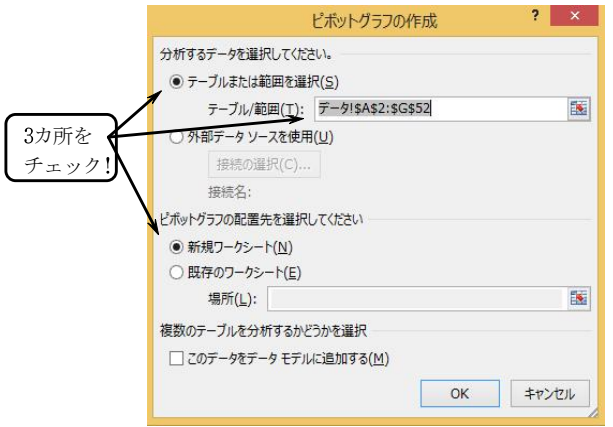
今回の講座の目的も『世の中にあふれた数字に価値を見出す手法を学ぶ』です。

本時は、クロス集計を学びます。

【クロス集計】
アンケート調査等によって収集した回答データを、設問を掛け合わせて集計することを「クロス集計」といいます。クロス集計によって、設問の回答傾向を、別の設問の回答別に細分化して見ることができます。なお、細分化に使用する設問は「分析軸」や「ブレイクダウン (BD)」などと呼ばれます。また、クロス集計の結果による集計表を「クロス集計表」といいます。

それでは、Exelを用いて、dummydateBの活動に関する意識調査アンケート結果をクロス集計してみましょう。

- 手順①: A2~G52までのデータをドラッグして選択する。
- 手順②: 挿入ツールにある『ピボットグラフ』をクリックする。
- 手順③: 次のようなピボットグラフの作成画面が現れる。
図にある3カ所をチェックしたら、OKボタンをクリックする。



- 手順④: 画面右端に次のようなピボットグラフのフィールド画面が現れる。学年の項目を図のように2カ所にドラッグしながら動かす。右図の囲まれた部分のようになったかを確認する。



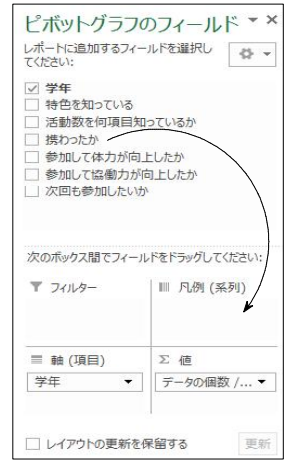
- 手順⑤: 画面左側に次のような表が完成したかを確認する。

行ラベル	データの個数 / 学年
1年	17
2年	16
3年	17
総計	50

これで、各学年に何個のデータがあるのかわかるようになりました。

それでは、クロス集計に移ります。

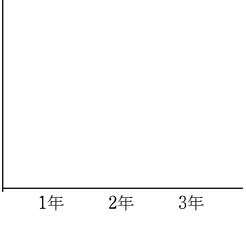
- 手順⑥: 次の図のように、携わったかの項目を図のように、ドラッグしながら動かす。



※以上で、完了です。以下の問に答えましょう。

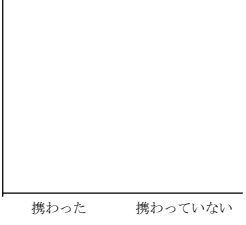
問1: 「学年」と「活動に携わったか」に関するクロス集計表にあてはまる数を記入せよ。また、得られたヒストグラムを完成せよ。

	携わった	携わっていない	総計
1年			
2年			
3年			
総計			



問2: 「学年」と「活動に携わったか」の軸を入れ替えて、クロス集計表にあてはまる数を記入せよ。また、得られたヒストグラムを完成せよ。

	1年	2年	3年	総計
携わった				
携わっていない				
総計				



問3: 今回のデータは「学年」と「活動に携わったか」に関するクロス集計を行う際に、どちらの項目を縦軸(原因)に設定すると、傾向がつかみやすいかを話し合い、その結果を記述せよ。

問4: dummydateBのその他の項目に関するクロス集計を自由に行い、わかったことを図や表を用いながら、文章で説明せよ。